



兵庫支部NEWS H23年 4月号

北九州市立大学同窓会兵庫支部 編集発行人 名越英昭 (Tel.078-792-6130)

ホームページ <http://www.hi-net.zaq.ne.jp/kono> メール hn75kb@ybb.ne.jp

購読料 12回、1,500円(送料込)

購読のお申し込みは郵便振替

振替口座:00980-2-245822

口座名:北九州市立大学同窓会兵庫支部

この度の東日本大震災により被災された皆様ならびに関係者の皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興と、皆様の安全を、心よりお祈り申し上げます。

優勝は三本寛氏(41中国)

第34回三金ゴルフ兵庫・関西合同コンペ

3月30日(水)第34回三金ゴルフコンペが明石ゴルフ倶楽部で開催された。当日、関西・兵庫両支部の会員と会友21名が参加した。

東日本大震災の混乱の中、ゴルフコンペ実施は如何かと問う声もあったようだが、直接的に震災の影響がない地域であり、派手にやることは別として、自粛することはあるまいということになったと聞く。節度ある言動と痛みを分かち合える心さえあれば、通常の楽しみを実施するのは許容されることであろう。両支部の役員とコンペの責任者の良識と判断は妥当だろう。



ゴルフの良さは言い古されていることであるが、基本が歩くことであり、ハンディ制があることだろう。従って性別、年齢を問わないのが良い。今回も、女性2名と83歳の井上信之さん(25米英)が参加され、

(井上信之さん) 健脚と力のある言葉を披露された。

優勝は一番遠距離(河内長野市)から参加された三本寛さん(41中国)、ベストは実力派の葉室新人さん(41米英)でした。

尚この度の震災による義援金として22,500円が参加者より集められた。

次回のコンペは9月28日(火)と決まった。会員の多数のご参加をお待ちしております。 山本信司(37米英)記



兵庫支部5万円、三金ゴルフ2.25万円 東日本大震災義援金に応募

北九州市立大学同窓会では、この度の東日本大震災に対し救援金50万円を拠出する事を役員会で決定し役員全員による寄金5万円とともに日本赤十字社を通じて寄金したことを各支部に通知した。

兵庫支部でも3月30日三金ゴルフ終了後、正副支部長による緊急会議で協議し、兵庫支部として5万円(支部会計から4万円+役員有志の寄金1万円)及び兵庫支部三金ゴルフ/兵庫・関西合同コンペとして、22,500円を3月31日「日本赤十字社東北関東大震災義援金」あて送金した。

本部では各支部の対応を取りまとめ、6月に発行予定の北友会会報104号に掲載する予定である。

兵庫支部役員会開催予定

5月15日(日)13:30~於兵庫勤労市民センター

次回役員会は上記日程で開催される。議題は①第25回兵庫支部総会、具体的な取組について ②規約の改正について ③その他

なお、講演候補者の提案を牛丸幹事に連絡の事

2月開催の役員会決定に基づいて、その後の調整で下記の通り役割分担が決定された。(下線はリーダー) 事務局部門のリーダーは予定していた小野幹事が引受固辞の為当面山田副支部長が兼務する。

- *事務局部門 山田、小野、中村、浜田、
- *広報・情報部門 名越、二宮、外1名(未定)
- *組織部門 組織担当 三宅、佐藤、安部
総会・忘年会担当 牛丸、福永、高山
- *会計部門 松山、太田 (敬称略)

第34回三金ゴルフ/兵庫・関西合同コンペ 於明石ゴルフ倶楽部 平成23年3月30日(水)



松山、豊田、名倉、河野、井上隆、井上信、山田、鷹野、三本、渡辺、御堂、久芳、山本安徳、山浦、謝、城戸、葉室、松尾、永翁、富山

♪♪ キャンパスは二つ、心は一つ ♪♪ 校歌に「ひびきのキャンパス編」追加

ひびきのキャンパス開設10周年を迎え、大学校歌の歌詞に「ひびきの」のフレーズが入った歌詞、4番と5番が追加され、3月19日の第59回学位授与式で正式に披露された。

校歌の作詞者(故)遠丸 立(本名進 隆、スミ カシ)氏(24米英)の遺志を継ぎ、同氏夫人で、詩人・作詞家の貞松瑩子(サマツ エイ)さん(本名進瑩子)により作詞されたものである。

増編された4番および5番は下記の通り。

北九州市立大学校歌 (ひびきの編)

作詞 貞松瑩子 作曲 山浦茂人(25中)

4. いま先人の跡を踏み
未来を拓く研学に
深刺と勤しみ立たむ
吾等行く 深遠
あゝひびきのの学舎
躍進の夢の永遠に栄ゆ

5. 掲げし理想胸に抱き
世界を望む大海に
颯爽と羽搏きゆかむ
吾等行く 誠実
あゝひびきのの学舎
燦たる希望のわが母校

北九州市立大学新学長・新理事長就任

4月1日、新学長近藤倫明氏と新理事長石原進氏が就任された。



近藤新学長については、本紙1月号で紹介したが、矢田俊文前学長の任期満了により、学長選考会議で副学長だった近藤倫明氏(58)が選任されたものである。

石原新理事長は、阿南惟正前理事長の後任者として選任されたもので、昭和20年4月生まれの66歳。

昭和44年東京大学法学部卒業後、日本国有鉄道に入社し、昭和62年4月の民営化により九州旅客鉄道に入社して平成14年6月から社長、そして会長を務めた。九州財界の重鎮として諸団体の役職を歴任。



(石原理事長)



損害保険・医療保険・がん保険
の総合保険代理店

安心の発信基地

大村保険サービス

代表 大村 実良
(昭和33年商学部卒)

652-0897
神戸市兵庫区駅南通3丁目4-1-302
TEL 078-671-7318 FAX 078-671-8316

第34回三金ゴルフ兵庫・関西合同コンペ成績表

平成23年03月30日(水) 於明石ゴルフ倶楽部

順位	競技者	卒年	学科	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット
1	三本 寛	41	中国	45	46	91	16.8	74.2
2	山本信司	37	米英	45	45	90	15.6	74.4
3	城戸善弘	41	中国	44	43	87	12.0	75.0
4	葉室新人	41	米英	45	41	86	10.8	75.2
5	名倉勝征	41	米英	49	46	95	18.0	72.2
6	謝 美華	ゲスト		56	53	109	31.2	77.8
7	御堂隆輝	47	経済	41	53	94	15.6	78.4
8	安徳信義	44	商	49	57	106	27.6	78.4
9	鷹野哲雄	33	商	52	54	106	27.6	78.4
10	富山幸子	ゲスト		54	60	114	34.8	79.2
11	井上隆令	ゲスト		51	50	101	21.6	79.4
12	山浦邦夫	ゲスト		50	53	103	22.8	80.2
13	山田紘昭	44	商	51	57	108	26.4	81.6
14	渡辺恭章	43	商	56	55	111	28.8	82.2
15	河野旺生	36	商	62	55	117	34.8	82.2
16	永翁正臣	41	商	60	48	108	25.2	82.8
17	久芳健二	44	商	49	56	105	21.6	83.4
18	井上信之	25	米英	62	66	128	36.0	92.0
19	松尾祐嗣	45	経営	66	65	131	34.8	96.2
20	松山 仁	44	商	69	66	135	36.0	99.0
21	豊田康雄	35	商	77	75	152	36.0	116.0

ドラゴン賞:OUT ⑦安徳、⑦謝、IN ⑬三本、⑭葉室

ニアピン賞:OUT ②御堂、②城戸、⑤安徳、⑥富山

IN ⑩久芳、⑫葉室、⑪永翁、⑪山本

ベスグロ賞:葉室、BB賞:松山

次回予定:9月28日(水)於神戸三田ゴルフクラブ

優勝者三本寛氏談話

今日のゴルフはつまらないミスが何回かあったりして目標(グロス89)に届かなかったという点で少し不満が残るところもありましたが、永翁さん、井上(隆)さんと楽しく廻らせていただき、結果としてハンディに助けられたとはいえ、優勝できたことは素直に嬉しく思っております。ありがとうございました。

兵庫支部月例会3月「三金会」

3月20日(金)午後6時から本館牡丹園で開催され出席者は6名だった。出席者は下記の通り(敬称略)
大村実良(33商) 高尾巖(36商) 平間正昭(37商)
名越英昭(37米) 二宮慶治郎(38米) 安徳信義(44商)
以上6名

「三金会」「囲碁の会」会場ご案内 本館牡丹園

神戸市中央区元町通1丁目11-20

電話 078-332-4588 FAX 078-392-3020

JR元町駅東口海側下車、南へ(大丸方面へ)徒歩1

「三金会」

毎月第三金曜日 午後6時～
会費:3,500円(男性)
2,000円(女性)

「囲碁の会」

毎月第三金曜日 午後3時～
参加費:無料、ドリンク/500円



熊野街道を歩く

— 第9回 —

JR紀伊駅からJR布施屋駅まで

川辺王子(26)→中村王子(27)→吐前王子(28)



(JR紀伊駅駅舎と駅前広場) 見当たらず前回古道(和歌山県内では街道ではなく古道の呼称に統一されている)と別れた地点まで引き返す。

バス道から住宅街の細い道に入り西連寺の墓地を横目に進むと小さな祠と鳥居が見え、青色の説明板と王子跡を示す石碑が直ぐ側にあった。石柱には「史跡川辺王子跡」とあるが説明板



(川辺王子跡)

には「川辺王子旧跡」とある。江戸時代に力侍神社に遷坐されたという事だからだろうか。説明板の裏面には「宝くじ宣伝普及事業として整備」されたとある。



(導き石が嵌め込まれた道)

を探すが見当たらない。行ったり来たりしてやっとコースからやや左に外れた所に、青色でなく白の看板があるのを見つけた。この辺りの地名「楠本」は古くは「中村」と呼ばれ「中村王子社」があったが、熊野参詣道が時代により多少変わっている為位置が特定されていないとのこと。

そこから田園地帯の農道を道に嵌め込まれた「導き石」に従って歩き、住宅街に入ると桜並木があり、開花はしていないが蕾はかなり膨らんでいた。再び住宅街を離れ田園地帯を進み、次の中村王子跡



(中村王子跡説明板)

ここから5分ばかり歩くと(中村王子社跡説明板)力侍(氏)神社の参道の並木が見えて来た。その参道



(鳥居側に川辺王子跡の石柱)

の入口の鳥居の側に「川辺王子跡」の石柱のみが立っている。先刻訪ねた「川辺王子旧跡」を本来の王子跡と認定したということか。約200mの参道を進むと二つのお社が見える。奥の方が力侍神社、手前は八王子神社(摂社一合祀されて客分となった神社と説明あり)である。両社殿ともに建立年代を示す史料はないが、各部分の様式や技法からみて16世紀後半に建立されたものと考えられるとのこと。

約200mの参道を進むと二つのお社が見える。奥の方が力侍神社、手前は八王子神社(摂社一合祀されて客分となった神社と説明あり)である。両社殿ともに建立年代を示す史料はないが、各部分の様式や技法からみて16世紀後半に建立されたものと考えられるとのこと。



(力侍神社正面から)

天手力男命(アマノノミコ)を祭神としていることから、力侍神社の名前も手力男に由来しているとのこと。

力侍神社から5分ばかりで国道24号線に出た。

国道24号線を横切って直進すべきだが、左の方に「イズミヤ」スーパーの建物が目に入る。昼食弁当を仕入れなくてはと立ち寄ることに。食堂なども併設されているようだが、天気の良いしもうすぐ紀ノ川の土手に出るはずだしと、弁当とビールを買い求める。

(スーパーイズミヤ)

国道を横切り「導き石」に導かれながら住宅街を抜けると、紀ノ川の土手を走る広い道に出た。弁当を広げる場所を探す。土手は急な坂になっており危なくて、やっと橋の袂の小さなスペースを見つけた。通りがかりの中学生達がジロジロ見ていたが構わず弁当を広げビールを開ける。

この川辺橋は約800mの長い橋だ。橋の上流の方には

「川辺の渡し場」があったら

しいが見落としてしまった。後で橋の上から上流を窺ってみるがどの辺りか判らず。橋を渡ったところにも道標が立っており、布施屋の渡し場推定地約150mとある。川沿いの上流の方へ行ってみるも何もなし。



(橋上から紀ノ川上流を望む)

諦めて吐前(ハダキ)王子跡方面へと歩を進める。事前に調べた位置よりは大分手前で吐前王子跡への道標

を見つかる。王子跡まで100mとある。吐前踏切を渡るとすぐその王子跡を示すお馴染みの青色の説明板と王子跡石碑を見つけた。この吐前王子社の名前は藤原定家や藤原頼資の日記に見られる由。この吐前では紀ノ川

の水で心身を清める水垢離を行い、祓いをして王子社に参拝するのが通例だったという。

江戸時代には、この王子社は王子権現と呼ばれ、この北東の、今は削平された高台にあったようだ。

予想外の近い場所にあったので、予定よりは約1キロ短縮された。住宅街を抜け



(布施屋自治会館と道標)

突き当りを右折して、吐前自治会館、明光寺の前を通り、左側に道標を見つけた。次回コースの川端王子跡への道標で、建物は布施屋自治会館である。ゴールの布施屋駅はもう近い。布施屋駅は無人駅で、ホシヤと読みます。和歌山と王寺を結ぶ和歌山線の駅でスルッと関西等のカードが使えず現金で切符を購入し、和歌山で乗換紀州路快速で帰路につく。



(布施屋駅)

「歩こう会」3月例会 再度公園・修法ヶ原池

フリスビー遠投大会で楽しいひととき

3月13日(日)「歩こう会」3月例会が開催され久しぶりの六甲山系登山となった。H21年9月の摩耶山登山以来で、再度公園を訪れるのはほぼ3年ぶりである。

午前10時JR元町駅西口に集合したのは、二宮会長、安徳支部長、元田、浜田及び名越の同窓生5名、ゲスト参加の山浦夫妻と角田嬢の総勢8名。陳さん一家・鄭さん等6人は先発して途中のお茶屋で落ち合うことになった。

遅れて来た人の到着を待って10時過ぎに出発し、北上して、兵庫県公館前、県庁前、相楽園前、諏訪神社前から山手女子高校前を通って山道へと入って行く。



(相楽園前で信号待ち)



比較的緩やかな舗装された坂道をゆっくり登る。これまで何度も登った道だが丁石が立っているのに初めて気付いた。大龍寺までの道程が示されているのだろう。(写真左)

やがて再度谷川にかかる「ひよこ橋」を渡ると正面にトイレが見え、その左横の坂道を登ると再度山荘・燈籠茶屋がある。そこに先発した陳さん一行が居る筈だがそちらには寄らずそのまま直行する。



(左燈籠茶屋に寄らず直行する)

道は暫く沢沿いの緩やかな坂道が続き、そして少し急な坂道を登り切ると、猩々池の交差点に到着する。右へ行けば二本松から新神戸方面へ、左へ行けば鍋蓋山方面へ続くが我々は直進して大龍寺方面へと向かう。ここにはベンチなどもあり、登り始めて約1時間で小休憩に丁度良い。陳さん一行も追いついてきた。1817年下流の村への灌漑の為作られた池で、その完成祝いに「猩々」の曲が謡われたことから「猩々池」の名前となった由。



(猩々池畔で小休憩)

大龍寺へ向かう道筋で瀟洒な喫茶店を見つけた。聞けば昨年末に完成したばかりだとか。コーヒー400円、ビール500円の看板が店頭に掲示されている。その隣に民家には立派な難飾りが飾られていた。(写真右)



(昨年末完成の喫茶店)

やがて再度山大龍寺の参道に入る。再度(ワタ)山ははじめ摩尼山といわれていたが、弘法大師が唐へ渡る前にここで修業



帰国後、再び登ったので、再度山と呼ばれるようになったとのこと。また大龍寺は768年和氣清麻呂が建てた伝えられている。

大龍寺への階段手前で二宮会長が、遅れていた我々を待っていてくれた。大龍寺境内に向わないで、側道を通り抜け修法ヶ原を目指す。

この道は六甲全山縦走のコースであり、折しも兵庫県勤労者山岳連盟による全山縦走が開催されており、多くの大会参加者とすれ違った。12時過ぎに修法ヶ原池に到着し、池畔にて昼食をとる。



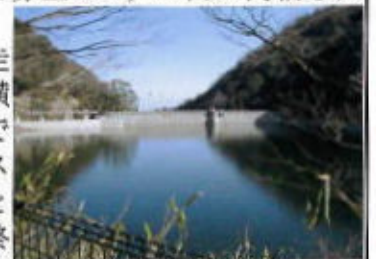
(再度山と修法ヶ原池)

昼食後は、近くの広場で二宮会長が持参のフリスビーの遠投大会を楽しむ。陳さん長男、陳俊友君が優勝2位は父親の陳朝誠さんで、3位に山浦氏という結果となった。フリスビー大会後本日の参加者14名全員の集合写真(下)を撮影し、下山開始。



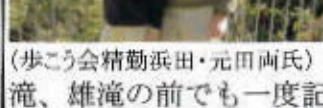
大龍寺までは登りと同じ道を下る。大龍寺境内を通り抜け山門へ。山門前では全山縦走の主催者が東日本大震災義援金応募箱を用意して呼び掛けていたので、僅かながら応募する。後日、神戸新聞紙上で兵庫労山六甲全山縦走大会の名前で募金242,440円が掲載されていたのを見つけた。

市が原まで六甲全山縦走コースを下り、市が原を横切って上った所、桜茶屋で休息。ここから縦走コースと別れ布引貯水池方面へと下って行く。耐震工事が終わり、湛水された貯水池は美しい景観でハイカーを癒してくれる。工事期間中は底が剥き出しで殺風景だった。



(水を湛えた布引貯水池)

展望所まで下りてくると謝美華さんが待っていた。陳さん(娘婿)一家出迎えて、下山後の食事を一緒に楽しもうと。展望所からの神戸市街地の眺望は素晴らしい。



(歩こう会精勤浜田・元田両氏)

しばらく景観を楽しんだ後下山再開。直ぐ下の布引の滝、雄滝の前でも一度記念写真を撮影(写真下)

布引の滝は三大神滝の一つで、日本の滝百選にも選ばれている。

下山後は三宮駅迄行き予定通りビールで乾杯し、散会する。

